

室内楽ピアニストのメティエ（仕事）

——独奏ピアニストと何が違うのか？（お話と実演）

井上さつき 愛知県立芸術大学音楽学部教授（音楽学）

講師	ジャン・ジャック・バレ教授（ジュネーヴ高等音楽院室内楽科）
日時	平成 27 年 12 月 24 日（木）12 時 50 分～16 時 00 分
場所	愛知県立芸術大学音楽学部室内楽ホール
演奏者	酒井愛里（ヴァイオリン） 江川智沙穂（ピアノ）
演奏曲目	C. フランク： ヴァイオリンソナタ イ長調 J. ブラームス： ヴァイオリンソナタ第 2 番 イ長調 作品 100

出演者プロフィール

ジャン・ジャック・バレ（ピアニスト）

スイス生まれ。ピアノをパリ国立音楽院でレリア・グソーに師事。1974 年に 1 等賞を獲得したのち、室内楽第 3 課程にすすみ、ジュヌヴィエーヴ・ジョワ＝デュティユーに師事。その後、エコールノルマル音楽院で「演奏家資格」を取得し、ウィーン（ムジーク・アカデミー）でディーター・ウェーバーに、また、レヴィア・レフとアニア・ドルフマンに師事。また、数年にわたりティボール・ヴァルガのもとで室内楽を学んだ。

室内楽の演奏家として、ヨーロッパ、アメリカ、日本、韓国、中国など、世界各地で演奏活動を行っており、また、録音も多数。現代音楽の演奏で、アンサンブルを指揮し、E. カーター、G. ベンジャミン、E. デニソフ、S. グバイドウーリナ、K. フーバー、H. デュティユー、M. オハナ、G. クルターグ、細川俊夫ほ

か、多くの作曲家とコラボレーションを行っている。また、世界各地でマスタークラスを開き、日本では、武生音楽祭（2009、2010）、上野学園（2014-15）にて、また、北京中央音楽院、シンガポールの音楽院などでも実施している。

酒井愛里（ヴァイオリン）

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。2013 年より一年間、同大学派遣留学生としてドイツ国立ケルン音楽大学に在籍。

平成 26 年度（財）北野生涯教育振興会音楽奨学生。優秀学生賞、中村桃子賞受賞。第 3 回山田貞夫音楽賞及び特選受賞。在学中に大学院最優秀修了生によるコンサート等に出演。2015 年名古屋市文化振興事業団主催のオーケストラの祭典で名古屋フィルハーモニー交響楽団と、山田貞夫音楽財団主催の新進演奏家コンサートにおいてセントラル愛知交響楽団とコンチェルトを共演。これまでに谷口亜弓、大関博明、服部芳子、A. ダスカラキス、桐山建志の各氏に師事。

江川智沙穂（ピアノ）

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。ルーマニア国際音楽コンクールなど受賞多数。ソリスト、アンサンブル奏者として多方面で活動している。2013 年、セントラル愛知交響楽団とブラームスのピアノ協奏曲第 1 番を共演。2014 年、ソロリサイタル開催。これまでに、志村朱美、佐野翠、角野裕、永野美佐子、ラルフ・ナットケンパーの各氏に師事。

室内楽ピアニストのメティエ（仕事）

——独奏ピアニストと何が違うのか？（お話と実演）

講師：ジャン＝ジャック・バレ教授（ジュネーヴ音楽院）

日時：12月24日（木）12:50-16:00

場所：愛知県立芸術大学音楽学部 室内楽ホール

講座の概要：

下記の2曲を取り上げ、これら2曲について、音楽技法の影響関係を示し、さらに、ふたつの文化の間に存在するつながりも示します。

また、各曲の「アイデンティティ」をはっきりさせ、フランクのソナタの神秘的な側面と、ブラームスのソナタの持つ、ほとんど印象派とさえいえるような描写的雰囲気を示したい。

C. フランク：ヴァイオリンソナタ 第1楽章

J. ブラームス：ヴァイオリンソナタ第2番 第1楽章

演奏者：酒井聖里（ヴァイオリン）／江川智沙穂（ピアノ）



ジャン・ジャック・バレ（ピアニスト）

スイス生まれ、ピアノを、パリ国立音楽院でレリア・グソーに師事。1974年に1等賞を獲得したのち、室内楽第3課程にすすみ、ジュヌヴィエーヴ・ジョロ＝デュティユーに師事。その後、エコール・ノルマル音楽院で「演奏家資格」し、ウィーン（ムジーク・アカデミー）でディーター・ウェーバーに、また、レヴィア・レフとアニア・ドルフマンに師事。また、数年にわたり、ティボール・ヴァルグの右とで室内楽を学んだ。

室内楽の演奏家として、ヨーロッパ、アメリカ、日本、韓国、中国など、世界各地で演奏活動を行っており、また、録音も多数。現代音楽の演奏で、アンサンブルを指揮し、E. カーター、G. ベンジャミン、E. デニソフ、S. グラッドウーリナ、K. フーバー、H. デュティユー、M. オハナ、G. クルターグ、細川俊夫ほか、多くの作曲家とコラボレーションを行っている。また、世界各地でマスタークラスを行っており、日本では、室内音楽祭（2009、2010）、上野学園（2014-15）にて、また、北京中央音楽院、シンガポールの音楽院などで行っている。

現在、ジュネーヴ高等音楽院教授（室内楽および伴奏）。



酒井聖里

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。2013年より一年間、同大学派遣留学生としてドイツ国立ケルン音楽大学に在籍。平成26年度(財)北野生涯教育振興会音楽奨学生、優秀学生賞、中村桃子賞受賞。第3回山田貞夫音楽賞及び特選受賞。

在学中に大学院最優秀修了生によるコンサート等に出演。2015年名古屋文化振興事業団主催のオーケストラの祭典で名古屋フィルハーモニー交響楽団と、山田貞夫音楽財団主催の新進演奏家コンサートにおいてセントラル愛知交響楽団とコンチェルトを共演。

これまでに谷口重男、大関博明、服部芳子、A.ダスカラキス、桐山建志の各氏に師事。



江川智沙穂

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。ルーマニア国際音楽コンクールなど受賞多数。ソリスト、アンサンブル奏者として多方面で活動している。2013年、セントラル愛知交響楽団とブラームスのピアノ協奏曲第1番を共演。2014年、ソロリサイタル開催。

これまでに、志村朱美、佐野翠、角野裕、永野美佐子、ラルフ・ナットケンパーの各氏に師事。

今年度の音楽学コース主催の特別講座は、上記のような内容で開かれ、盛況のうちに終了した。

講師のジャン・ジャック・バレ氏はスイスのジュネーヴ高等音楽院の教授で、室内楽と伴奏を教えている。今回、音楽学コースの特別講座としてバレ氏に依頼したのは、室内楽のピアニストのメティエ（仕事）が独奏ピアニストとは何が異なり、どのような「秘密」があるのかを教えていただくことだった。

その際、セザール・フランクのヴァイオリンソナタ イ長調（1886年）とヨハネス・ブラームスのヴァイオリンソナタ第2番 イ長調 作品100（1886年）の2曲が題材として取り上げられた。この2曲は同時期に作曲されたヴァイオリンソナタの名作であり、どちらも同じイ長調で書かれているが、ベルギーに生まれフランスで活躍したフランクとドイツに生まれたブラームスとでは、背負っている音楽文化が異なっている。

特別講座では、それぞれの第1楽章を軸に、作品の「アイデンティティ」をいかに明確にするかということが実演を交えて示された。ヴァイオリンとピアノのバランスの取り方やメロディーラインの受け渡し方、和音の響かせ方、フレーズの作り方、また、いかに和音を濁らせずにペダルを踏むかなど、実践的でしかも深い内容で、聴いている私たちにとって、目からウロコが落ちるような瞬間がたくさんあった。一番驚いたのは、バレ教授が演奏すると、フランクの譜面からヴァーグナーの和音が現れてくることだった。フランス音楽とドイツ音楽の両方に通じているバレ氏ならではのレッスン内容で、ピアノ科の学生など、さらに多くの人々に知ってほしいと思った。

演奏者として協力してくださった本学大学院修了のヴァイオリンの酒井愛里さんとピアノの江川智沙穂さんに心から感謝したい。